

特集

かわさき市民アカデミー

川崎学 ~川崎って面白い~

市民の生涯学習と社会参加意欲に応えるため、専門的で継続的な学習と研究の場として1993(平成5)年10月に開学した「かわさき市民アカデミー」。“市民による運営”を目指し、認定NPO法人かわさき市民アカデミーが現在運営を行っています。社会科学・自然科学・人文科学の多分野にわたる講座やワークショップが実施されていて、年間延5,500人の受講生が学んでいます。

かわさき市民アカデミーの看板講座のひとつ「川崎学」。川崎学とはどのような学問なのでしょう。ちょっと覗いてみませんか。

川崎区 大師橋のたもとから見る多摩川スカイブリッジ

かわさき市民アカデミーの開学に際し、川崎市が策定した生涯学習推進の基本構想・基本計画の中で重視されたのは、地域の社会生活に密着した学習活動でした。「市民自治の発展」「人間都市川崎の創造への貢献」という理念を掲げて出発したかわさき市民アカデミー。この理念を具現化させるものとして、地域学としての「川崎学」が登場しました。



副学長
成城大学名誉教授
田中 宣一 先生

川崎学は、川崎のことを知るために、川崎に関じこもるのではなく、川崎と関連させながら、いろいろな角度から川崎を見ていく学習研究活動です。現在は、「歴史」「自然Ⅰ」「自然Ⅱ」「学び・歩く かわさき」の4つの講座と、1つのワークショップ「まち歩き」を開講しています。教室で講師の講義を聞く座学と、施設見学をしたりまち歩きをしたりする野外学習で構成されています。野外学習時には、「せっかくここまで来たのだから、解散後おいしいものでも」という受講生同士の楽しみもあり、自然に仲間ができていきます。

各講座はコーディネーターがテーマを設定して授業を組み立て、その内容にふさわしい講師を招き、コーディネーター自身も講師を務めます。野外学習の際には現地との交渉もするなど、コーディネーターの任は大変ですが、その方面に精通し、豊富な人脈をお持ちの方々が務めています。世話人(受講生有志)の皆さんには、講座の運営でいつも大変お世話になっています。とても頼もしい、大きな存在です。

コーディネーターは講座の要



自然Ⅰ
多摩川流域自然史研究会代表
増渕 和夫 先生

地形や地質を主に学習する自然Ⅰは、外から川崎を見るという視点で、野外学習では川崎市外に出て行くことが多く、あまり皆さんが知らない場所に行くようにしています。少しくらい足が不自由でも参加できるように、歩きやすいコースの設定を心がけています。



学び・歩く かわさき
産業遺産情報センター研究主幹
伊東 孝 先生

講座のあり方として、1回から12回まで関連した話で通してほしいとの要望があります。しかし第一線で活躍する現役の大学の先生に依頼するには、回数が多くなると難しい。そこで、縦系列ではなく、横系列の春・秋連続で、関係テーマを設定してカリキュラムを組んでいます。



【ワークショップ】まち歩き
日本地名研究所研究員
菊地 恒雄 先生

7回の講座なので、多くの方が思い浮かべることができるものをテーマとして設定し、テーマを大切にカリキュラム編成をしています。昨年後期は「養蚕」、今年前期は「鶴見川」がテーマです。川崎といえば多摩川のイメージがありますが、鶴見川も深い関りがあります。

野外学習は「そうだったのか！」がいっぱい



かわさき市民アカデミーの旗の下に集合し、いざ出発！



移動時や、列の最後尾の受講生にも講師の説明が聞き取り易くなるようにイヤホンガイドが採用されています



まち歩き
「鶴見川の特徴を示す地形・地質」



学び・歩く かわさき
「菅の渡し場跡を歩く」

受講生の声

「とにかく講師陣が素晴らしい。楽しみで仕方なくて、内容をしっかり理解するために、講義の前に入門書を買って勉強しちゃいました」

「座学で知識を仕入れた後に外に出るので、ただ歩くよりも多くの発見や気づきがあります。自分一人では行けないようなところに行けるのも嬉しい」

「座学だけだと眠くなっちゃうけど、次に野外学習があると思うと、座学も楽しく聞けます。年配の受講生が多いけれど、若い方にも勧めたいです。知っているのと知らないのとでは、生活の質のようなものが違ってくるのではないのでしょうか」

皆さん、講座受講の満足度が大変高く、「知れば知るほど川崎って面白い！」と、川崎学を心から楽しんでいる様子が伝わるお話しぶりでした。

■問合せ

認定 NPO 法人 かわさき市民アカデミー
〒211-0064 中原区今井南町 28-41 川崎市生涯学習プラザ 3階
電話: 044-733-5590
F A X: 044-722-5761

ホームページ ⇒

